

No. 263

SEMANARIO DE SÃO PAULO

14-Janeiro-1927

人間が物を見る時、大抵の場合
は起立して見るか、腰かけて見る
か坐つて見るかする。横寝してみ
たり、仰臥して見たり、後に首を
ねじ向けて背景を観る事もあり、
うつ向いてみ、仰向いて見、上眼
使いして見る事もある。
たまには片眼で見たり、四ツ這
ひになつて見たりもする時がある
人間としては斯うした觀方が常道
の見方であらう。自然の眼の使い
方であらう。

以上の常道な見方をした眼が何
うかすると物を全く見誤つて居る
事がある。遠眼近眼の差から生じ
た謬見かも知れぬが、寫眞のレン
ズを覗いた人々の氣付く様に物皆
逆さまに映る現象がある。そうして
逆さまの現象は人間の肉眼レンズ
中でも同じそしした現象が起つて
居る。

物の見方は時によつては逆に見
教へて呉れる。

そんな時の逆の見方と云ふのは
大抵心の現はす言葉の逆を云つた
もので、本人が「嫌やだ」と云つた
時の素振で、本人は「好いて居
るな」と反対の意味に取られねばな
らぬ心の反映動搖を見抜いた折の
逆な察し方である。

成程そんな反映が真んとの事も
あらう。

所詮は人間の心の持ち方によつ
たり、或は性的に外界の状態に因つたりして、物の見方が種々に
變象されるであらうが、主觀的で
なく、客觀的に物を見る眼に、人
間は今一つ真んとに物を逆に見る
觀方がある。

逆立ち觀

聖め新報

購讀料	
一段	二段
半ダ分	全
ダ分	全
一ヶ年前金	後金
元、000	元、000
社主編輯人香山六郎	

R. ABE Redactor
do "Semanario de São Paulo"
Caixa, 58 - BAURU
Est. de São Paulo - Brasil

医歯科 向井丈松

足二本で地上にプラ下つて居る

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

つてゐる美人が全く滑稽な像に現

る。

伯人が逆立ちして目尻の釣り上

つた日本殖民を眺めた時、目尻の

垂れた人間と云はぬであらうか。

低い鼻が格好よく映らぬであら

はる。

人間が兩手と頭とを地上に三脚

かし、體と兩足とを空に棒立ち

にして周圍一切の物を觀る時、起

瞬 星

錢見哲之助

のように、或は高く、或は低く、憧
れは憧れを生んで、未知の異國の
情調に心の隅から隅まで溶かして
了ふ時、蒸し暑い教室の中で、頭
の禿げた修身の教師の片苦しい説
教めいた道徳訓も、無味乾燥なも
ので少しも邦雄の頭には入らなか
つた。斯うしてゐるのが耐へられ
ない位などろしく感じられて、兄
の許に飛んででも行きたい様な事
が時々繰返された。

時は流れて邦雄が土地の中學の
學業が漸く卒つた時、永い旅をし
てゐた人がやつと目的地に着いて
やれ〜〜と云ふような心持であつ
た。學友達がベンの交叉の校章や
稻の入つた角帽や、白線入りの柏
葉の校章を誇らげに大道狭しと歩
く得意顔も、邦雄には少しも羨む
様な心持は起らなかつた。それよ
りももつと大なる得意の場面が彼
の前に待つてゐてくれる様であつ
たからだ。

ブリマの静子と急きたてられる
ように忙しい結婚をして、憧れの
南國、兄の許に落ちていたのは今

R. Barão de Itapetininga, 20
Caixa, 1005 S. Paulo

力一ザ東京

（夫婦者にても宜し）
詳細は左記へ御問合せ下さい

此の靜子の言葉に邦雄は半わが
耳を疑つた。然しその語韻に、内
容に、余りにも真剣な對度に接し
てはサット真蒼になつて、睨みつ
める様に妻を見た瞳からは炎を吹
くかと思はれた。

「ネ貴方、私がこれ程真剣な對
度で話してゐるのに未だ疑つてゐ
らつしやるのですか、未だ信じて
は呉れないのですか、妻の言葉」
それも笑談にしろ云はれない此様
な問題も、兄さんを信用してゐら
んしやる貴方の目には何の價値も

(二) 淡見哲之助

瞬星 ブロミッキン輝

天涯の彼方迄續くかの様な擴々
漠々たる大牧場、千古不斧の大處
女林、一望總は珊瑚の海、兄から
の斷片的文意を材料として邦雄の
心の内には色々と空想が次から次
へと無限に擴がつて行くのであつ
た。此の大自然の大バツクを春に
して、異人種の間に立混つて人種
的平和の戰の第一線に奮闘する兄
の姿も又色々と想像を描かれるの
であつた、憧れであつた。

椰子の木蔭で、金髪白面の美人
と胸を轟かしながら息を殺して無
言のまゝぐつと抱擁して、戀の赤
酒に酔ふたなら……。そうだ、俺
がマンドリンを彈く、戀人が唱ふ
赤い大きい鏡の様な南國の月が椰
子の葉蔭から浮ぶ、自然は静かだ
俺達の戀の爲め祝福してくれる萬
象、呼……詩だ、詩的だな……：

誇大的文意とのみ思つて半信半
疑であつた兄の事業も、豫想以上
の擴大なる經營振りに接しては、
兄の手腕に威服してしまつた。相
變らず軍隊生活の延長のようにキ
チ／＼した兄の生活は、兄の性格
の半面を充分物語つて居た。小さ
い集團地ではあつたが日本人會長の
名譽職の要席を占めて居る兄が、
自分の地位を考ぬたり、嚴格その
ものゝ様な几帳面性格者の兄が、
どうして自分の弟嫁に對して、今
靜子が訴ぬるような事が——と邦
雄にはどうしても眞實として受入
れる事が出來なかつた。大きく笑
ひに紛らして、大股に寢室に身飾
りを解くべく歩を運んだ。

「貴方は……私のこの眞剣な話
をどうしても其の様に笑談に紛ら
して終ふと仰言るのですか、私の
言葉は信じて戴けないといふので
すか、くやしいですわ、くやしい
ですか……」

邦雄の行手を遮つた静子には何
處迄も真劍味が含まれて居た。義
眼の様に白い、セルロイドの人形

北米を旅して

無數の魂が労働の前に額づい
る
都會の夜は憂鬱に
都會の使徒は
血みどろの瘦馬の如く斃れて
る
かつて見た事のない丑満時
れ自身の寢顔
己れは見てみたい
自己嫌惡と都會自殺の帮助と
品 小 田舎の花

This image is a collage of four vintage Japanese advertisements from São Paulo, Brazil. The top-left ad is for 'HOTEL e ARMAZEM JAPONEZ' at Caixa, 261—Pennapolis. The top-right ad is for 'CASA OHARA DE OHARA & IRMÃOS ARAÇATUBA'. The bottom-left ad is for 'MARCENARIA JAPONEZA' at Massagi Koga BAURU. The bottom-right ad is for '家具製造 古賀政次' (Furniture Manufacturing) at R. C. Sarzedas, 41 — S. Paulo. All ads feature pine tree illustrations.



女忠臣藏

(六十六)

吉良の犬など交りおつては一大事	さうと詮議致さでは協はぬ喃	源四郎は皆の顔を見ながら云つた	源四郎は皆の顔を見ながら云つた
「然し赤穂へ出向きもならぬ、何か方便ござるまいか」傳兵衛は考へながら云つた。	「誰れ彼れと申すより間十次郎殿にお頼み申しては何うござる、	十次郎殿は赤穂お住居ぢや、今日の御評議の次第によつて、一應は御歸國と存じ申す」源四郎は得意顔であつた。	すぐ同じだ。
「如何様のう」と、傳兵衛はうなづいて、「十次郎殿お引受下さるか」	「詮議致すには及ばぬ、平左衛門の心中は清水よりも潔よい、假病を云ひ立て義に背く武士でない	「如何様のう」と、傳兵衛はうなづいて、「十次郎殿お引受下さるか」	「幸ひぢやお身の心で平左衛門引受けた。
「詮議致すには及ばぬ、平左衛門の心中は清水よりも潔よい、假病を云ひ立て義に背く武士でない	「お大は心に掌を合せて、十次郎	「お大は心に掌を合せて、十次郎	「眼病とは申しおるが、水晶のやうに清い眼を致し居る氣、不審なが
「ほ」と傳兵衛は嘲ける様に	「きつう平左衛門を御最負ぢやの	「ほ」と傳兵衛は嘲ける様に	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
「依怙は致さぬ、眞實を申すの	「依怙は致さぬ、眞實を申すの	「お大陸は寺の座敷へ通るなり聞いた、お大の目からは玉のような涙	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
「十次郎殿御存じか、平左衛門	「十次郎殿御存じか、平左衛門	春の日は逢坂山の頂きを出て長閑な温い光りを投げる、鶯は何時	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
家内は玉蟲七郎右衛門ござるぞ」	家内は玉蟲七郎右衛門ござるぞ	にない大一座の座を覗くよろこびた。	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
傳兵衛はしつゝ云つた。	辛いとでもござりますするか」	水鉢の縁まで來て鳴いて居る。	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
「舅は舅、平左衛門は平左衛門	お空は眉をひそめて尋ねた、親切に云はれる程お大の涙は止度もなく溢れた、お陸は不審に堪へなかつた。	「お大きさま、お出掛けられます	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
殊に家内は離縁致した」	お大はまだ耳根に残つてゐる良	るか」	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
「それが上面ばかりと申すこと	ひやり、一心忠義と見せかけて、吉良へ心を通はせる氣ぢや、の	「叔母様どうなされました、お	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
ぢや、離縁と云ひ立て、家内をおたが、點頭いた。	ひやり、一心忠義と見せかけて、吉良へ心を通はせる氣ぢや、の	辛いとでもござりますするか」	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
糟谷勘左工門は其時まで黙つてゐたが、點頭いた。	「そうあらう」と傳兵衛は得意	お空は眉をひそめて尋ねた、親切に云はれる程お大の涙は止度もなく溢れた、お陆は不審に堪へなかつた。	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
になつて「十次郎殿は盲目ぢや、の	「斯様に口惜しい事を聞かうと	「其處へ平左衛門は眼病、赤穂	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
いやさ、平左衛門の心中を見るに	お陸は思ひ掛けぬ事であつた、江戸から歸りは致しませぬ」	の住居と承はる、お母様御介抱され	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
於て、黑白を辨へられぬ、井口半	お陸は思ひ掛けぬ事であつた、江戸から歸りは致しませぬ」	あるまじうは存ずれど、彼方ばかりにお任せ申しては置かれませぬ、	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
う勘左工門	お大はまだ耳根に残つてゐる良	抱申し上げるが妻たる身の務めでござります、けれど物堅い平左衛門	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
糟谷勘左工門は其時まで黙つてゐたが、點頭いた。	お大はまだ耳根に残つてゐる良	火を失つた心持であつたろう、今	うに清い眼を致し居る氣、不審なが
になつて「十次郎殿は盲目ぢや、の	ひ致します、暗夜に燈火がふつと	ある限り、介抱したいを許してござります」	うなつた目前へ、又雲のかゝる田
いやさ、平左衛門の心中を見るに	消ゆたようには思はれます」	くれるでござりますか、折角めぐ	まことお大の心からは暗夜に燈
於て、黑白を辨へられぬ、井口半	まことお大の心からは暗夜に燈	のある限り、介抱したいを許してござります」	火を失つた心持であつたろう、今
う勘左工門	まことお大の心からは暗夜に燈	くれるでござりますか、折角めぐ	ある限り、介抱したいを許してござります」

ろう、お陸の執成で、覆水再び盆石に歸る時節到來と歡んだ甲斐も無う忽ちこんな故障に會ふ、然し平左衛門が前の過失を赦して、側近くおくと云つても、玉蟲七郎が側衛門の娘が側で介抱することはならぬ、それでなくとも皆様のお疑ひもかゝつて居る、其處へわたしが

Hotel Japonez
日 本 旅 館
バ ル ル 駅 前
沖 山 心 平

左文共
FOLHEIRO
Casa Hayashida

大第見積に參上致します
木文は廻し手す
キ細工一切

アレグレ植民地　藤澤豊治郎
　　総面積三千アルケレス
　　來て、見て、買つた　此語は當殖民地に適切な、アレグレ味
　　を持つた實証の言葉であります。地權に對してはシーザが保証致
　　します、豊沃な地質、交通便利、氣候良好、それは其名の示す如
　　く、入殖者のアレグレで盡きて居ります。諸君の御視察には、
　　植民地用の自働車が要意されあります
　　入植契約済の方最早や數十家族あります
　　中央市街地が豫定されて居ります
　　マツバの御入用の方には、お申越次第送ります
　　ノロエステ線、ビリギキ驛アレグレ植民地
　　詳細は左記へ御照介下さい
　　野村秀吉

口腔衛生には	芳香衛生ハミガキ粉	二ミル五百
消化不良による諸病には	ボリヂアスター	十五ミル
トラホーム、流行目には	タカ眼薬	五ミル
痛みある腫物には	タカ膏薬	三ミル五百
胃腸病には	タカ胃散	五ミル
子供の強壯剤には	ボリビタミーナ	十ミル
尙薬品、殺虫、殺菌剤及び醫療機械		
類の御求めに應じます		

▼取次所 各地邦人商店に御尋ね下さい
大潤内薬化學研究所
電話 セントラル 四八一九番

11

アグウア、リンバ
北西線
ビリグキ植民地
安瀬商店
カフ工精選所
商穀雜
Armazem e Machina de
Beneficiar Café

新聖州地圖賣出し K. NAKAYA
R. C. Sarzedas, 13
S. Paulo

到着

雜貨小間物

山口商店

山口兩助

北西線ビリグキ町 郵函二一七

アグウア、リンバ
北西線
ビリグキ植民地
安瀬商店
カフ工精選所
商穀雜
Armazem e Machina de
Beneficiar Café